

令和7年度 第2回
八王子市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会
次第

令和7年(2025年)7月28日(月)
午後2時00分～4時00分
八王子市役所 議会棟第六委員会室

1. 開 会

2. 報 告

- (1) 八王子市の「にも包括」の取り組みについて
- (2) A I 傾聴窓口「はちココ」の実証実験について

3. 議 題

包括的な支援体制の構築に向けたはちまるサポートの役割と地域との“つながり”について

4. その他の議題

5. 閉 会

【配付資料】

- ・第4期 八王子市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会委員名簿(R7.4.1 時点)
- ・【資料A】八王子市の「にも包括」の取り組みについて
- ・【資料1】A I 傾聴窓口「はちココ」の実証実験について
- ・【資料1参考】はちココ実証実験結果レポート
- ・【資料2】包括的な支援体制の構築に向けたはちまるサポートの役割と地域との“つながり”について

(仮称) 八王子の暮らし・居場所・福祉を考えるプロジェクト

八王子駅のそばに新しく“つながりを育む場所”をつくる検討を進めています。

どんな場所にしていくか、みんなで考えて、一緒につくる仲間を増やす、そんなワークショップを開催します。



ワークショップ #1

「いつもの暮らしと孤独・孤立～“場”の価値を考える～」

日 時：8月30日（土）13:00～16:30

参加方法：事前に右記フォームよりお申込ください。

※申込多数の場合等選考となる場合があります。

申込期限：8月15日（金）

※申込状況により期限前に締切る場合があります。

会 場：まち・なか ギャラリーホール

八王子市中町12-11-1 まち・なか2階

主 催：株式会社まちづくり八王子

協 力：八王子市、八王子市社会福祉協議会、NTT東日本株式会社 東京西支店

問合せ先：【WSに関すること】株式会社まちづくり八王子 n.mitsui@alchemicdesigns.net

【事業全般に関すること】八王子市福祉部福祉政策課 b440100@city.hachioji.tokyo.jp



<https://forms.gle/an52VDtwAVrdDBRCA>

こんな人の
ご参加を
待ってます

- ・もっと面白いことがしたい！
- ・つながりを増やしたい！
- ・もっと楽しく暮らしたい！
- ・(ついでに)孤独・孤立を減らしたい！

【第4期 八王子市地域福祉計画～つながる地域でつながる未来～】の内容のテキストマイニング結果（ワードクラウド表示）

このプロジェクトは、八王子市の「孤独・孤立対策推進事業」の一環として、八王子市・NTT東日本株式会社 東京西支店・株式会社まちづくり八王子の協定のもと進められている、地域の居場所づくりプロジェクトです。

八王子市の「にも包括」の取り組み

令和7年（2025年）7月25日

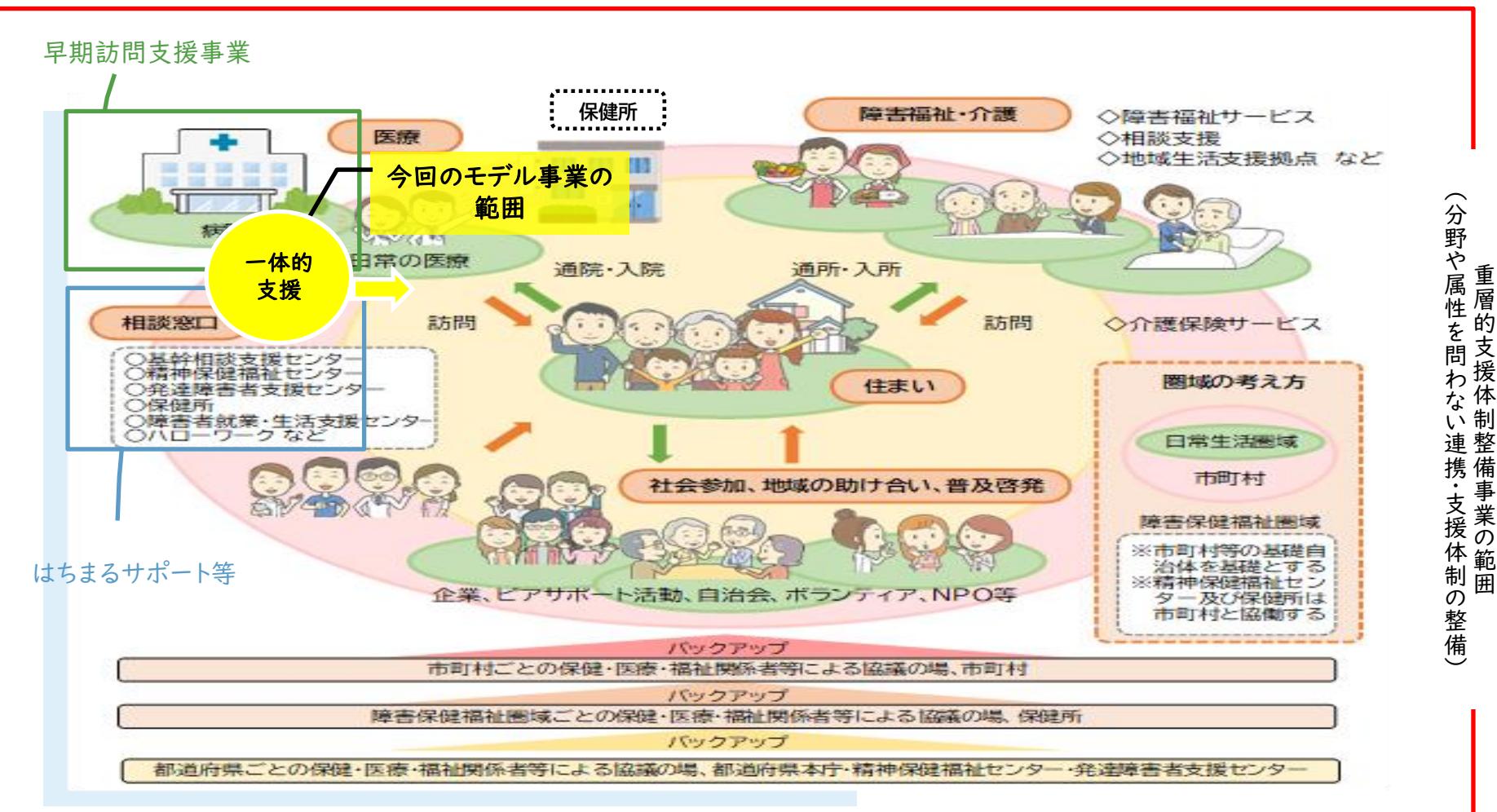
健康医療部 保健対策課

八王子市

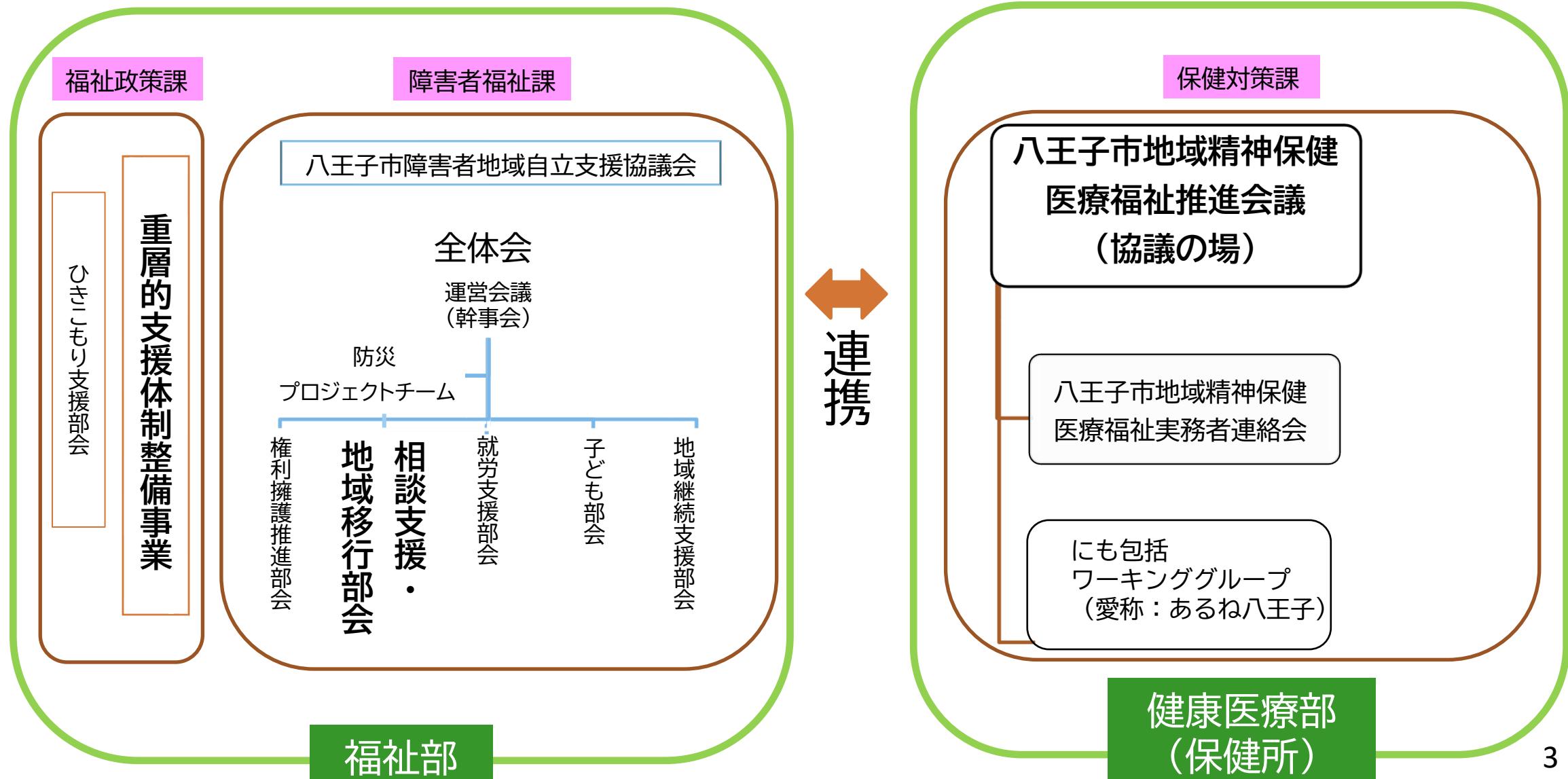


「にも包括」とは？

「にも包括」（厚労省による略称）：精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
⇒精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができる社会を実現するための取組



「にも包括」の基盤となる協議会など



「にも包括」構築に向けた取り組み概要①

①精神保健医療福祉体制の整備に係る事業

- ・八王子市地域精神保健福祉推進会議（年1回）
- ・構築推進センター

保健対策課

②普及啓発にかかる事業

- ・心のセンター養成講座（年1回）

保健対策課

③住まいの確保と居住支援に係る事業

- ・八王子市障害者居住支援事業（地域生活支援センター）
- ・八王子市住居賃貸代行保証料補助金
- ・地域生活支援拠点・委託相談（相談や契約などの同行）
- ・八王子市居住支援協議会と地域移行支援部会（自立支援協議会）の連携

障害者福祉課

④当事者、家族等の活動支援及びピアサポートの活用に係る事業

- ・思春期の課題を抱える親のグループ会実施
- ・家族会支援
- ・地域生活支援拠点事業でのピアサポート活動（ピアの病院訪問・連絡会議）

保健対策課

障害者福祉課

「にも包括」構築に向けた取り組み概要②

⑤精神医療相談・医療連携体制の構築に係る事業

- ・八王子市自殺対策検討会議・未遂者支援会議の開催
- ・精神保健医療相談事業

保健対策課

⑥精神障害を有する方等の地域生活支援に係る事業

- ・八王子市精神障害者早期訪問支援事業（早期訪問支援事業）
- ・八王子市社会復帰促進事業精神保健グループ（デイケア）
- ・地域移行支援部会

保健対策課

障害者福祉課

⑦地域生活支援関係者等に対する研修に係る事業

- ・相談支援事業所連絡会での研修

障害者福祉課

⑨その他、地域包括ケアシステムの構築に資する事業

- ・重層的支援体制整備事業

福祉政策課

「にも包括」構築に向けた取組み

年度	内 容	担当課
平成28年 (2016)	・「八王子市精神障害者早期訪問支援事業」開始	
平成29年 (2017)	・上記事業を「にも包括」のアウトリーチ事業と位置づけ、 協議の場 を設置	保健対策課
令和3年 (2021)	・ 重層的支援体制整備事業 =はちまるサポートとして相談開始	福祉政策課
令和4年 (2022)	・八王子市精神保健福祉実務者連絡会メンバー見直し、障害者福祉課と話し合い ・「あるね八王子」=にも包括WG開始	
令和5年～ (2023) 令和6年 (2024)	・厚生労働省「にも包括」 構築支援事業 に手上げ→広域アドバイザー※)の決定 ・研修会開催(医療機関向け・地域移行部会合同・保健師向け) ・にも包括合同会議出席 ・密着アドバイザー決定 ・「あるね八王子」でモデル事業について検討(4回開催)	保健対策課 障害者福祉課 福祉政策課

※) 藤井千代先生（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 部長）
高桑友美先生（岡山県精神保健福祉センター 地域支援科長）

八王子市の課題

協議の場やワーキンググループの意見から

- ・関係機関が多数で把握できない
- ・機関同士が相互に連携する体制が十分でない
- ・市の面積が広く、資源の分布に偏りがある
アクセスしづらい地域がある



→支援が必要な方に迅速に対応できずに
重症化しているのでは？

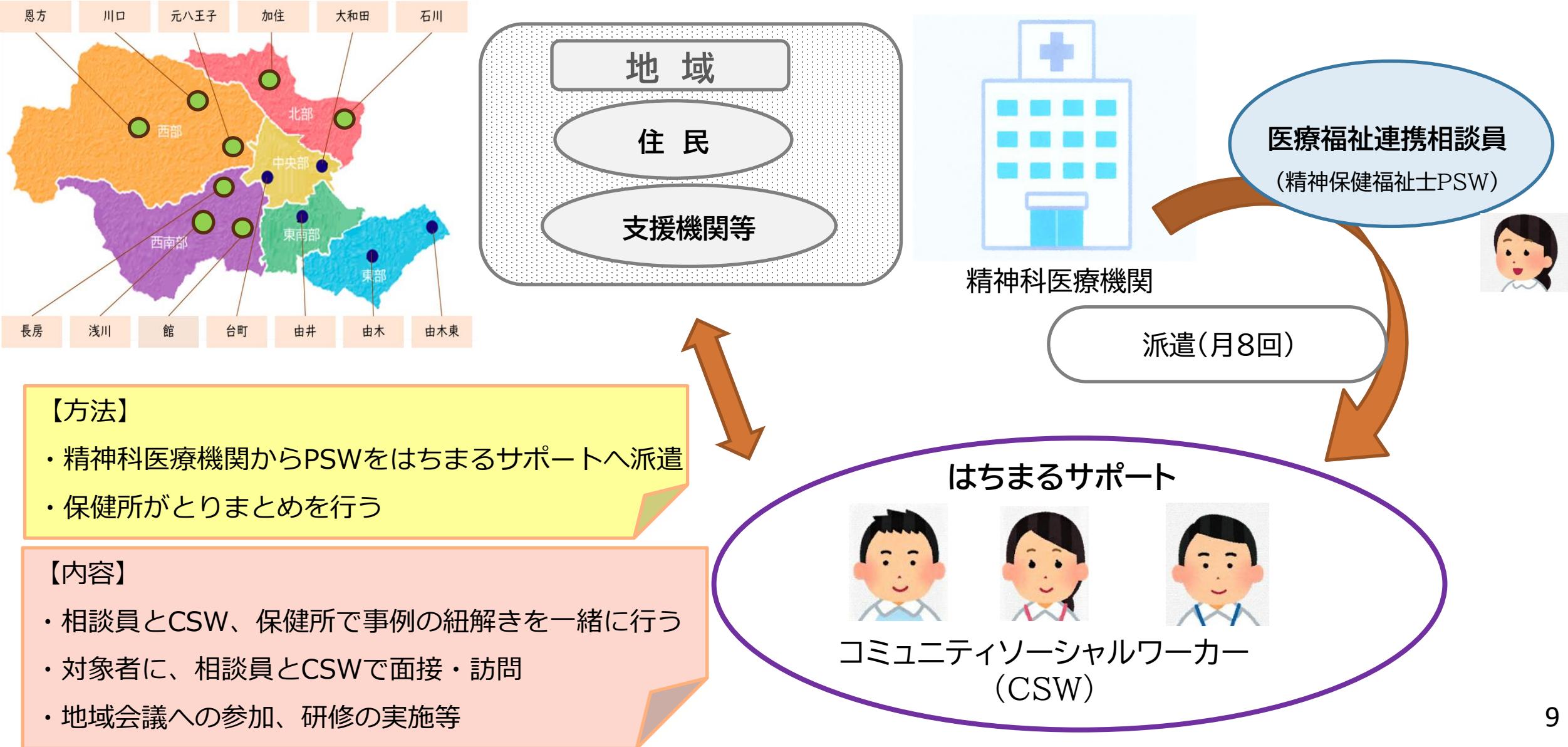
八王子市が目指すこと

- ①市民の困りごとやニーズを幅広く拾いたい
→重層的支援体制整備事業で「はちまる」が取り組んでいる？！
- ②医療と福祉の顔の見える連携を強化したい
→まずはブロック単位で始められると良いのでは？

ブロックごとの身近に相談・連携できる体制を構築

大きなまちの 小さなまちづくり

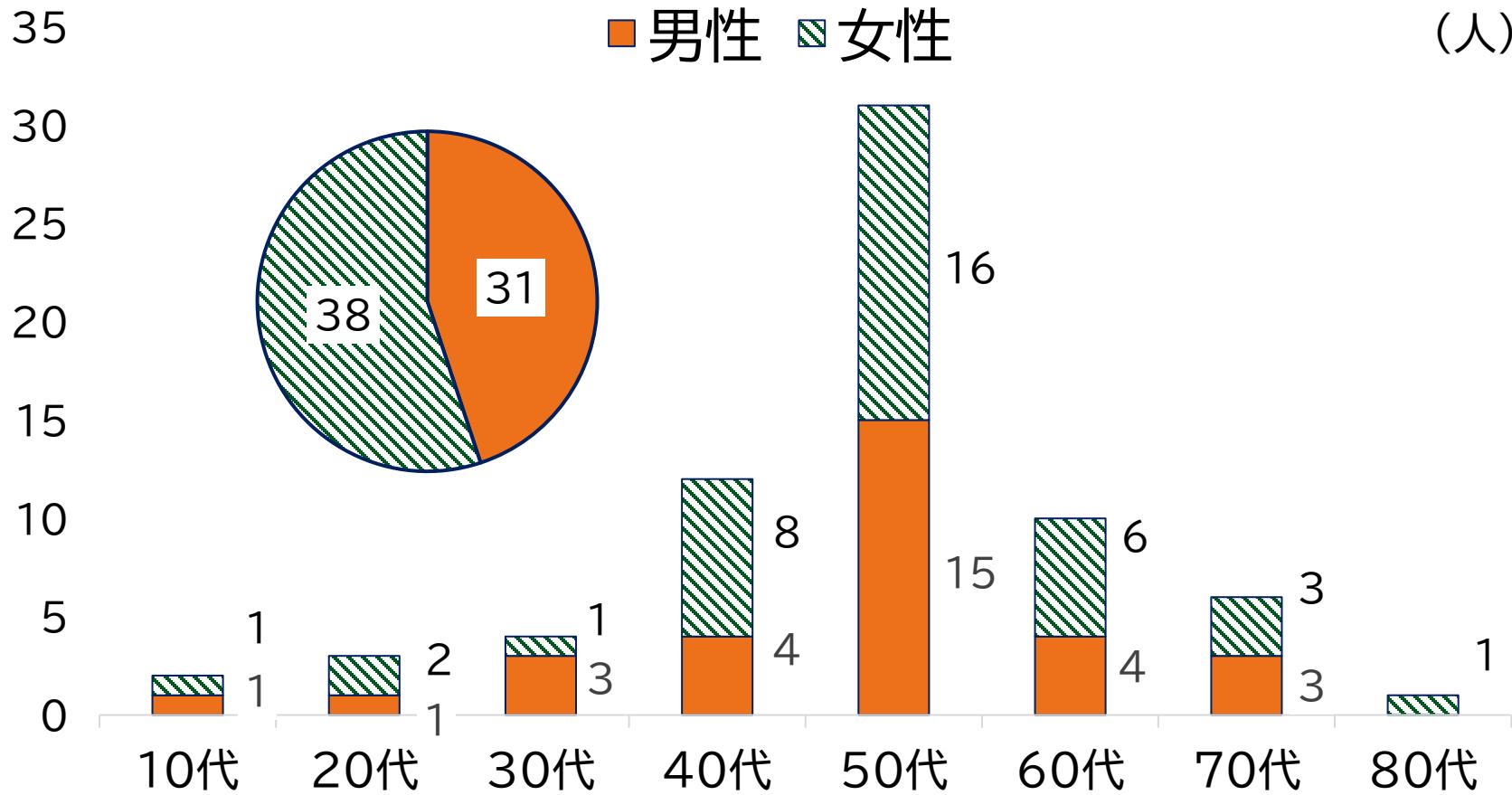
医療福祉連携型早期訪問支援モデル事業



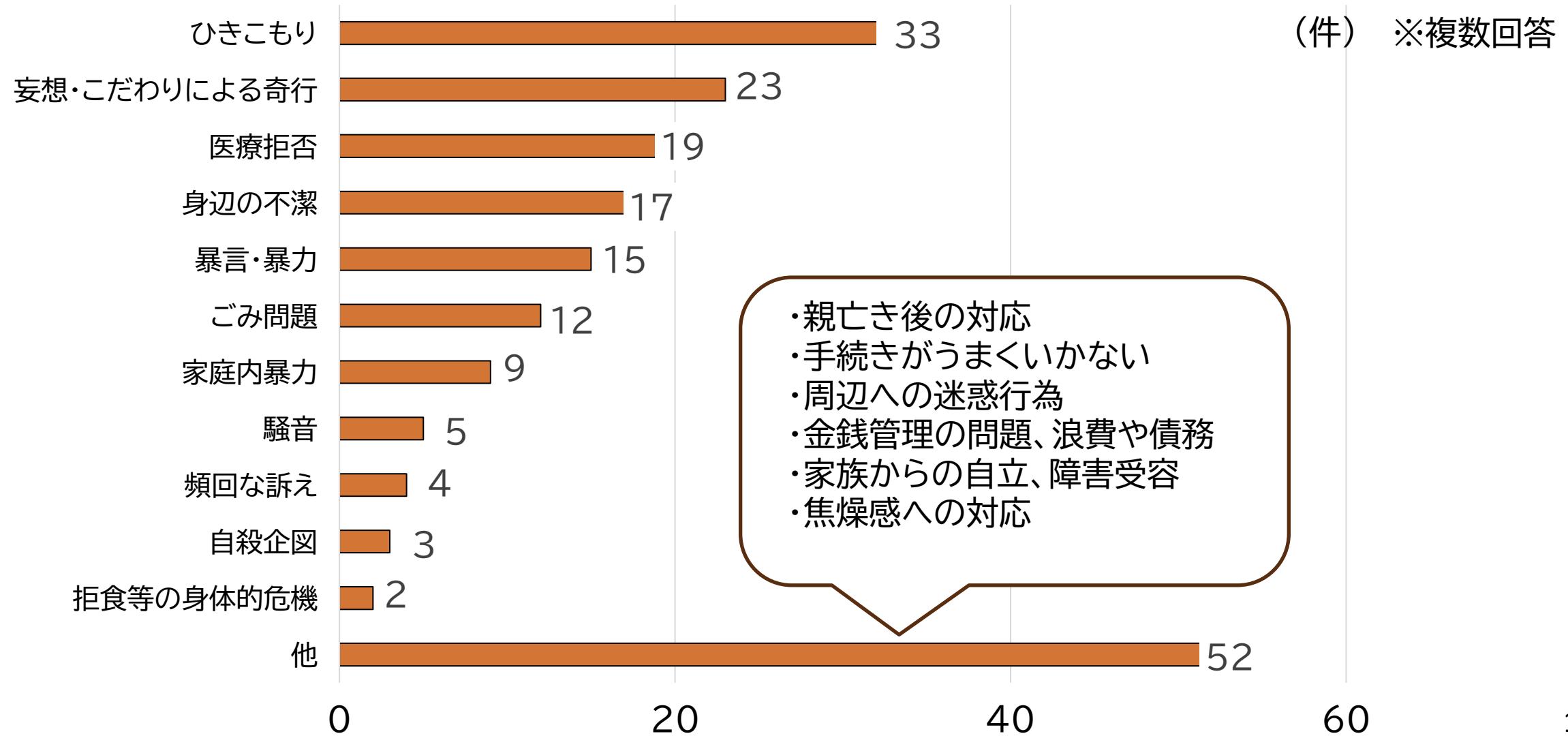
事業実施日数 ※重複なし

ブロック	はちまるサポート	実施日数(単位:日)
北部	石川	6
	加住	3
西南部	浅川	3.5
	長房	4
	館	6
西部	元八王子	3.5
	恩方	1.5
	川口	3.5
ほか		1.5
合計		32.5日

事業対象者の年代・性別 (n=69)



事業導入時の対象者の困りごと



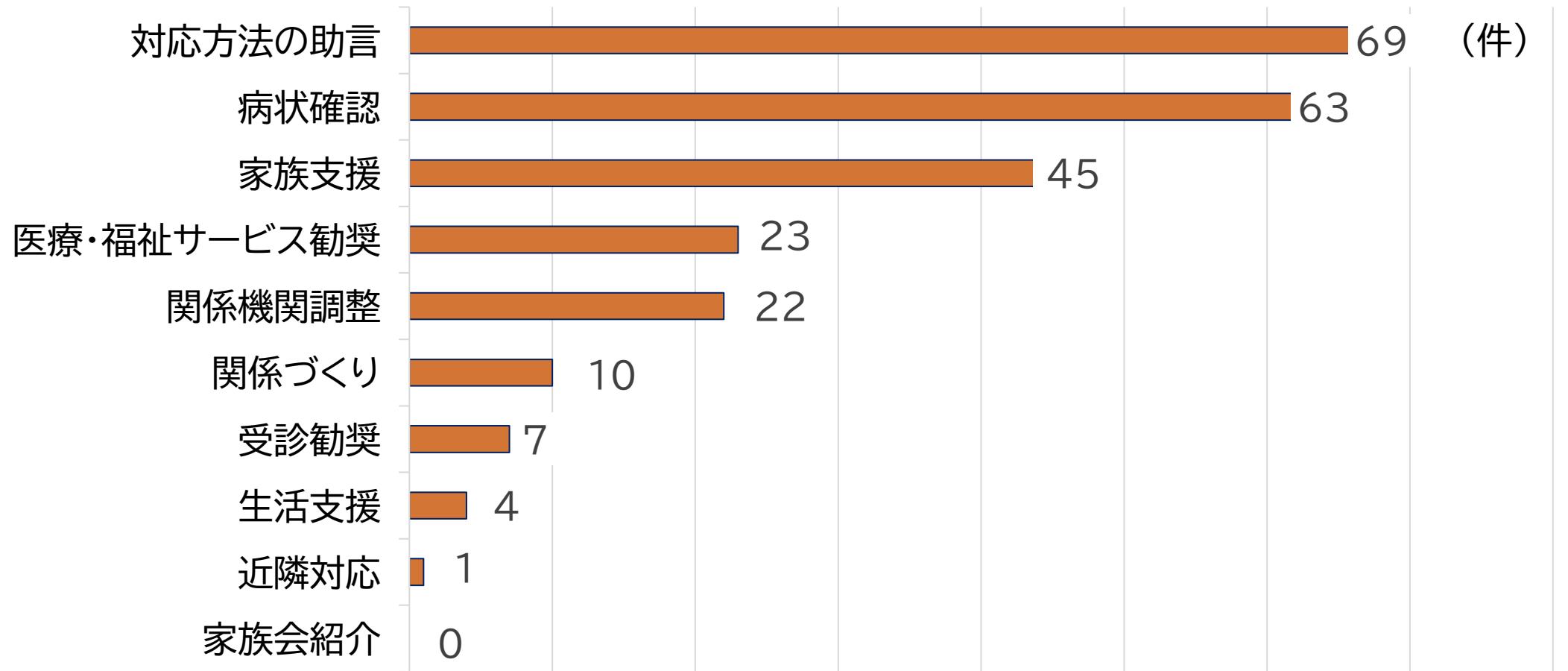
モデル事業相談内容例

- ・メンタル不調がありそうだけど、精神科の受診が必要な状態なのか？
- ・妄想と思われる言動で近隣苦情になっているが、本人は病識ない。どう関われば良い？
- ・多問題家族で課題が山積、緊急性の判断や優先順位に悩む
- ・精神科受診につなげるために必要な情報や準備とは？
- ・精神科の治療の内容や期待できる効果は？
- ・傾聴だけの対応でいつまでも続けて良いのか？他につなげる機関があるか？



医療福祉連携相談員の当日対応内容

※複数回答



7 医療福祉連携相談員からの感想（抜粋）

- ・他機関(包括・子家センなど)への事業説明があると良い。
- ・身体的な状態への対策が優先される場合が多い。
- ・具体的に支援が進んでいる案件もあり、はちまるサポートと一緒に行動ができているという実感が強まっています。
- ・難しいケースは関係機関同士が支えあう構図ができたらと思います。
- ・はちまるの支援の限界設定はどのように考えればよいか。
- ・通院していても、障害福祉サービスにつながっていない方が想像以上に多い。

8 はちまるサポート相談員からの感想(抜粋)

- ・行き詰っている案件について相談でき、助かりました。
- ・病院の方と顔の見える関係ができ、とてもありがたい。
- ・第三者からの意見を聞くことで、CSWのバーンアウト防止にも繋がる。
- ・看護師の同行も可能になると事業の幅が広がるのではないか。
- ・はちまるサポートが「にも包括」の相談窓口であり、精神障害者が疑われる方の対応をするのだと誤って理解されている。

モデル事業により期待できる効果

保健所で実施する「早期訪問支援事業」よりもさらに

早い段階から地域の身近な相談窓口(はちまるサポート)で展開

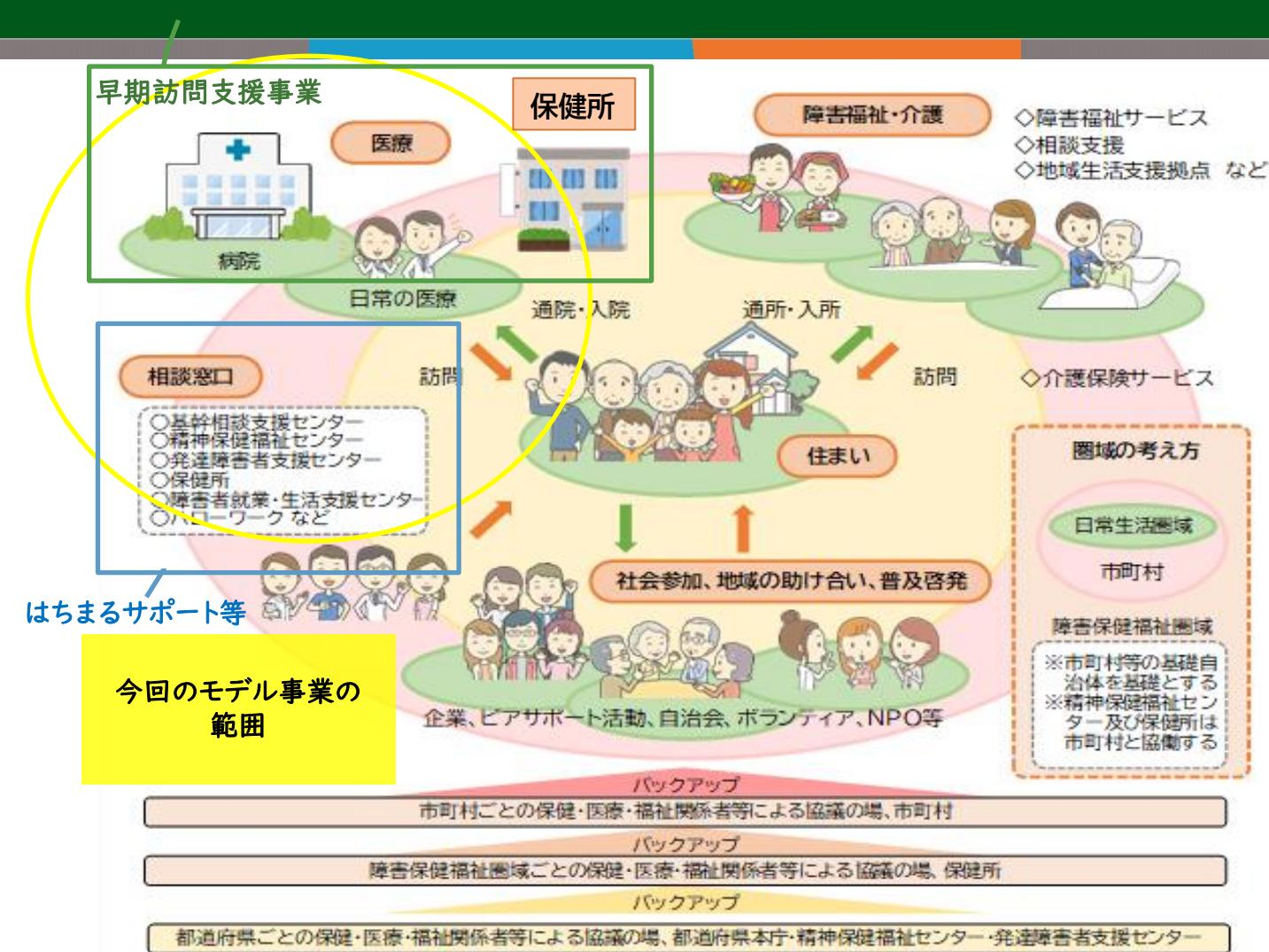


- ★ 相談者が孤立する前に、必要な相談先や専門機関へつなぐことができる
- ★ 問題が複雑化する前に、地域で潜在する課題に介入できる
- ★ 地域の窓口の相談員が抱え込み疲弊することを防ぎ、各機関とスムーズに連携できる



重症化の予防・地域での連携強化

事業の課題と今後について



モデル事業を通しての課題

- ① 市全域へ広げるための人材と財源の確保
- ② 高齢、子ども分野への拡大
- ③ 庁内や他機関への普及啓発

今後に向けて

- ・目指すのは、事業が無くとも構えずに相談できる関係作り
- ・人対人の連携から、機関と機関の連携へ
- ・それらを引き継いでいける人材育成の仕組み

大きなまちの 小さなまちづくり

ご清聴ありがとうございました



あなたのまちを、
あるけるまち。
八王子

A.I 傾聴窓口「はちココ」の実証実験について

令和7年（2025年）7月28日
地域福祉専門分科会
福祉部 福祉政策課

実証事業の概要

1 内容

匿名で困りごとや悩みを傾聴（共感）するWebサービス

- ・チャット形式による対話（24時間利用可能）
- ・対人での相談を希望する場合は支援機関の連絡先を案内

2 実施時期

令和7年（2025年）2月3日から令和7年（2025年）4月30日まで

3 対象

全市民

4 協力所管

青少年若者課（若者総合相談センター）、子ども家庭支援センター

※包括的な地域福祉ネットワーク会議の委員所管に協力の意向確認

5 費用負担

実証事業のため市の負担はなし



はちっこ実証実験 結果レポート



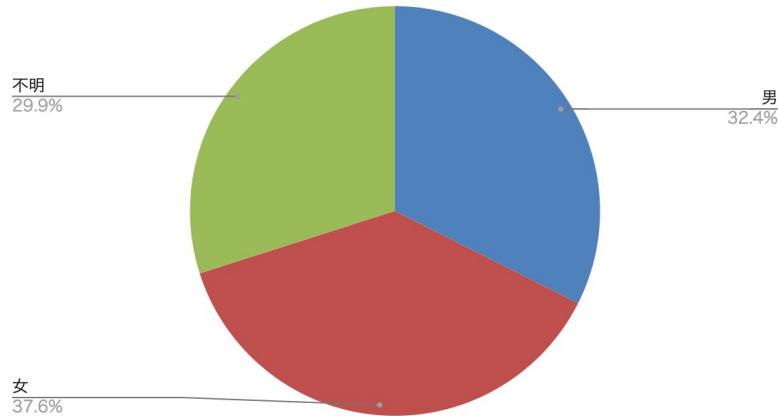
- ・目的：導入による効果検証および相談内容や属性、課題の検証
- ・期間：2025年2月～4月（3ヶ月間）
- ・公開/PR方法：市ホームページ
- ・機能：悩みチャット相談（傾聴・共感）+ 指定窓口のご案内

- ・相談件数：1,243件
- ・合計ターン数：9,791回（平均ターン数：8回）
- ・合計滞在時間：1,316時間（平均時間：63分）
- ・ユーザー満足度：95.6%
- ・リピーター率：19.3%
- ・性別：男女比はほぼ変わらず。
- ・年齢層：幅広い種類に分布（30代、50代、40代、20代の順で多い）。
- ・悩みや属性：幅広い種類に分布（会社員、主婦、大学生の順で多い）。

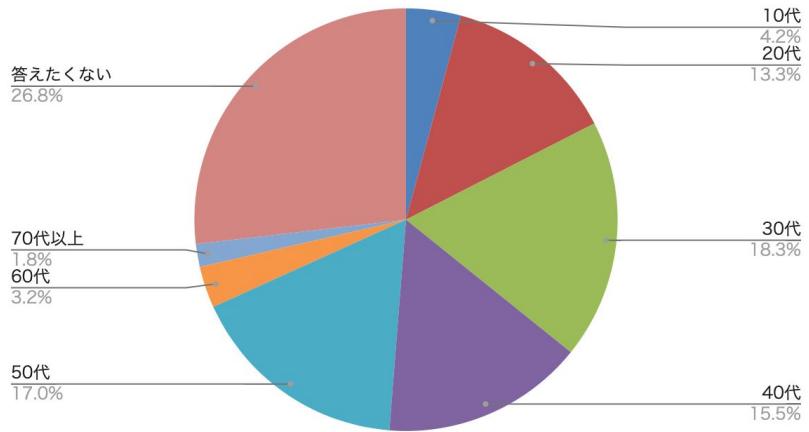
結果（図示）

Z

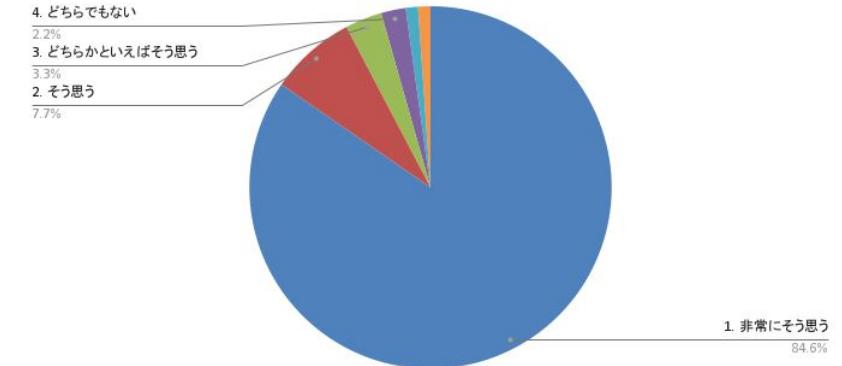
男女比率



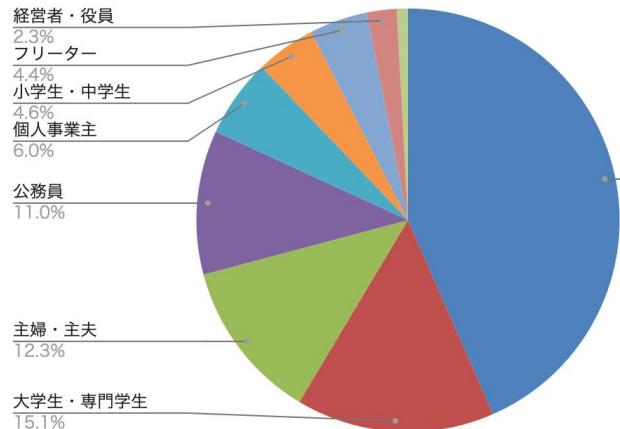
年齢層



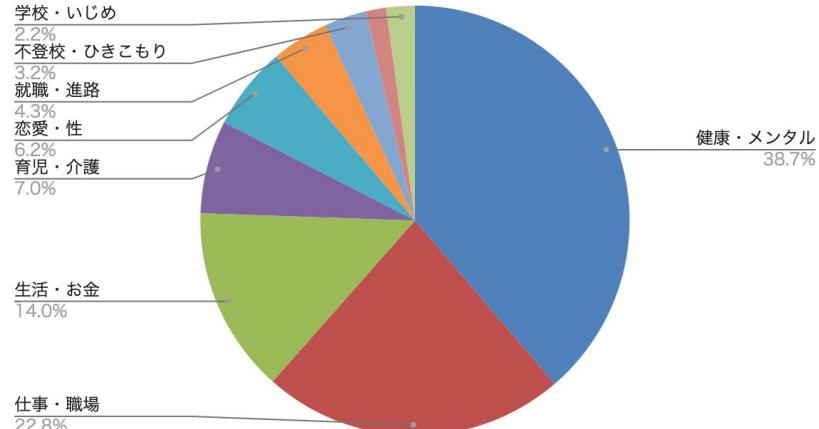
また"はちココ"を使用したいと思いますか？



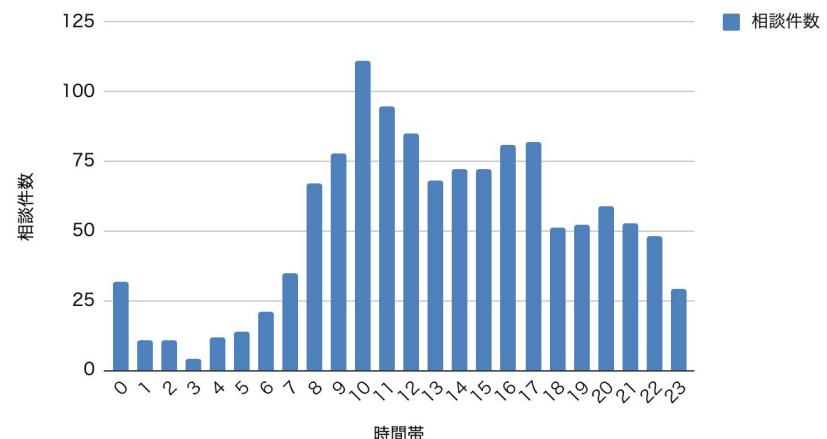
属性



悩みの種類



時間帯別



若者総合相談センター：75件

はちまるサポートセンター：241件

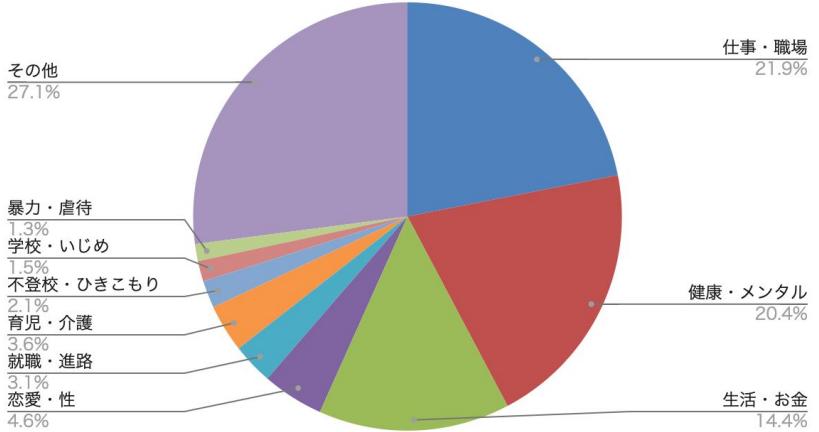
分析（性別 / 悩みの種類）

性別による悩みの種

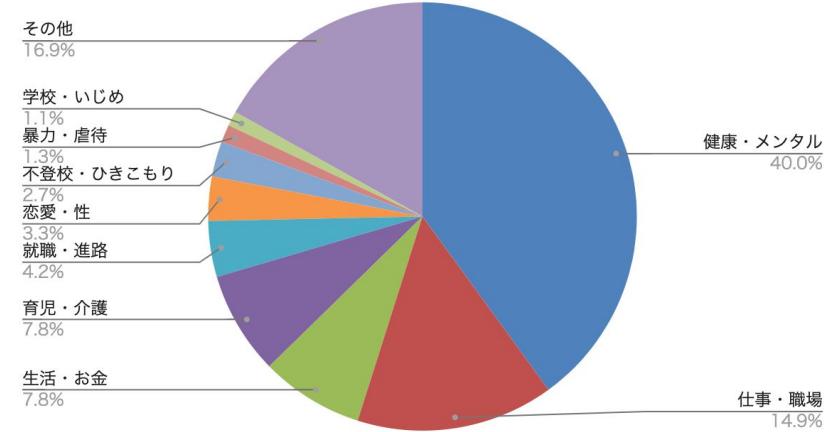
類の違い/特徴はあま

り見られなかった。

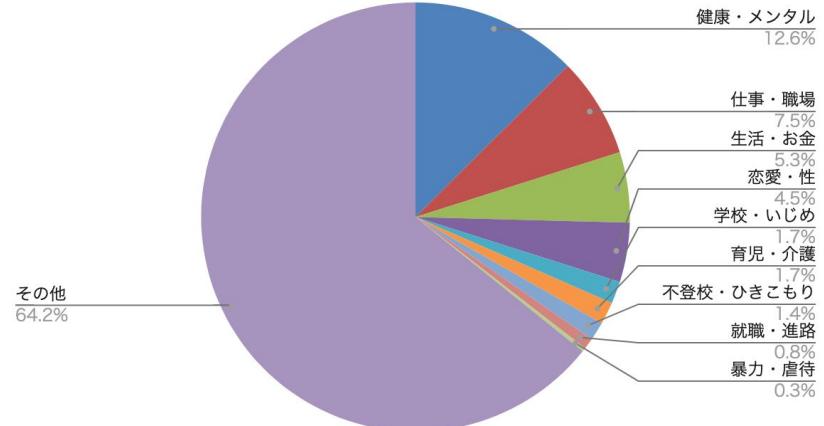
男性



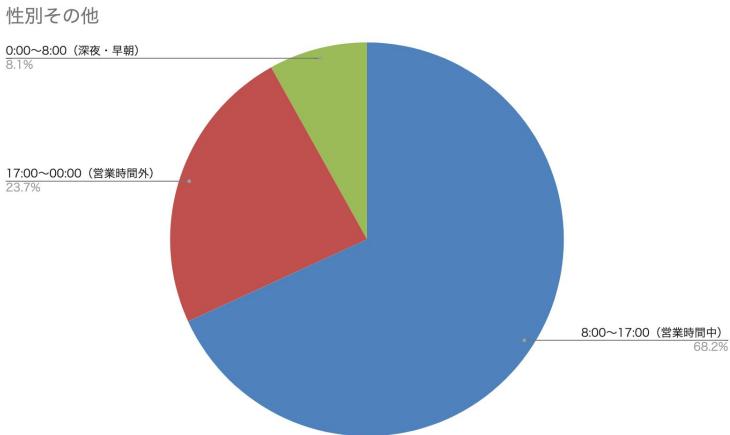
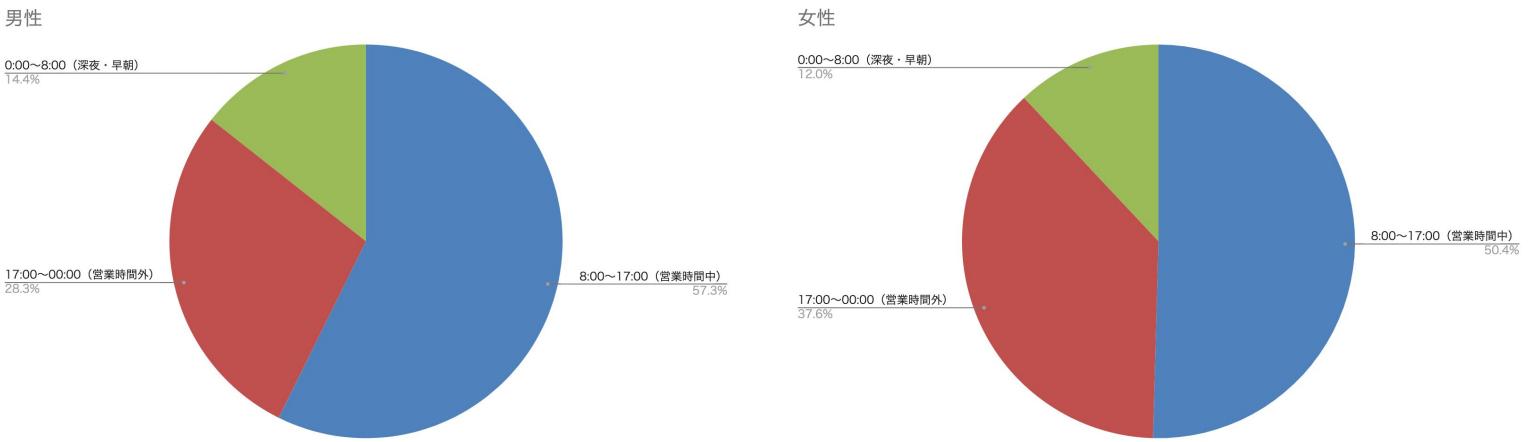
女性



性別その他



性別による時間帯の
違い/特徴はあまり見
られなかった。



女性

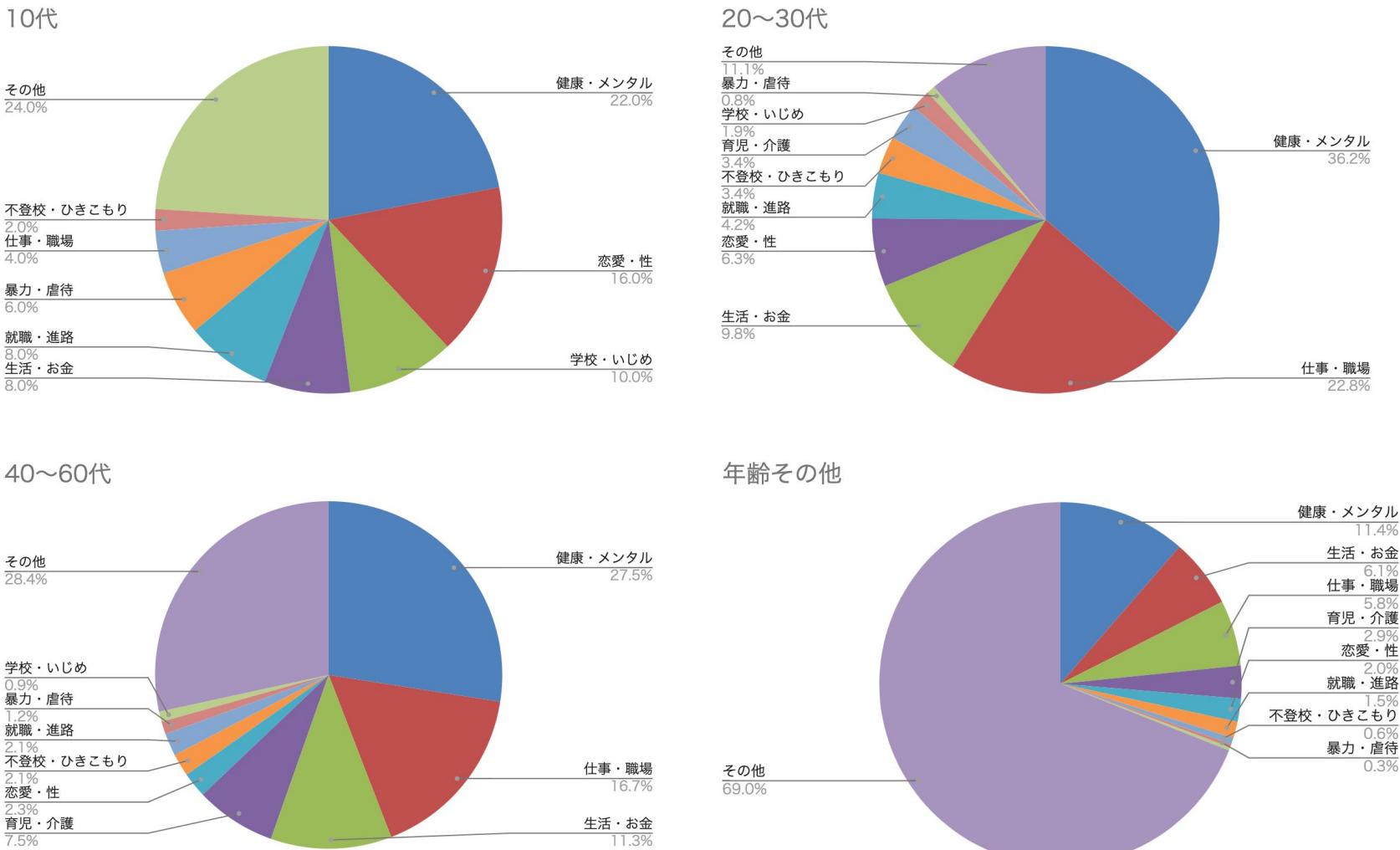
- ・ 全体利用数が最も多く、平均ターン数もやや長い。
- ・ 平均テキスト量は多く、悩みを詳しく説明する傾向。
- ・ 「健康・メンタル」や「家庭内の問題」、「子育て・介護」に関する相談が多い。

男性

- ・ 平均対話ターン数が比較的短い。
- ・ 平均テキスト量（文字数）は短く、簡潔に悩みを述べる傾向。
- ・ 内容は「仕事のストレス」や「生活費」など実務的・経済的な問題、そして「社会的な孤立」が多い。
- ・ 利用者数は女性より少ないが、他性と比べて深夜帯の利用が多い。

分析（年齢層 / 悩みの種類）

性別による時間帯の
違い/特徴はあまり見
られなかった。



年齢層による時間帯

の違い/特徴はあまり

見られなかった。

10代

0:00~8:00 (深夜・早朝)
12.0%

17:00~00:00 (営業時間外)
38.0%

20~30代

0:00~8:00 (深夜・早朝)
9.3%

17:00~00:00 (営業時間外)
36.5%

40~60代

0:00~8:00 (深夜・早朝)
16.4%

17:00~00:00 (営業時間外)
30.0%

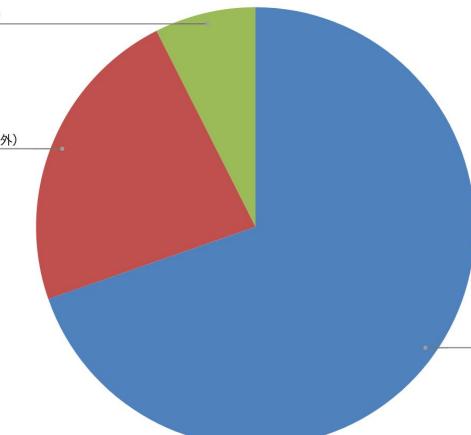
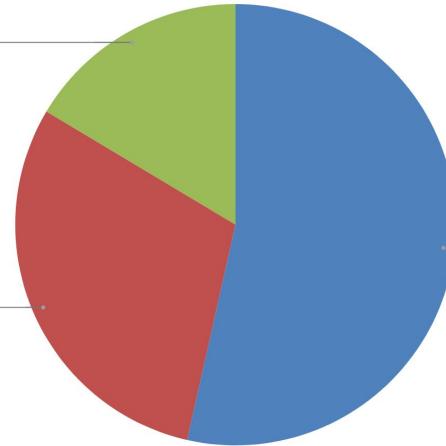
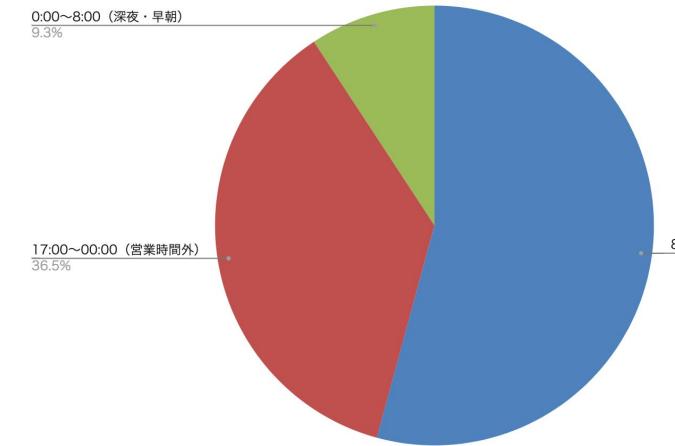
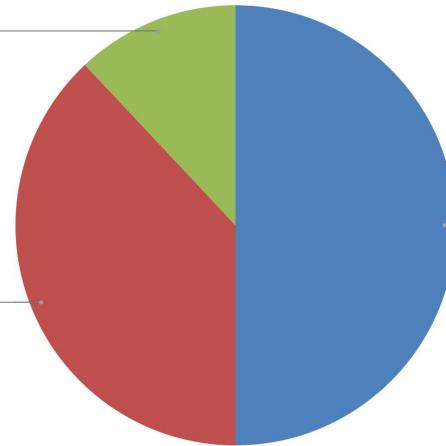
年齢その他

0:00~8:00 (深夜・早朝)
7.5%

17:00~00:00 (営業時間外)
22.9%

8:00~17:00 (営業時間中)
54.2%

8:00~17:00 (営業時間中)
69.7%



10代

主に恋愛・性、健康・メンタル、学校・いじめ、生活・お金、暴力・虐待に関する相談が多い。特に、恋愛や人間関係における不安や自己表現の難しさ、家庭内や学校での孤立感、経済的困難、精神的健康問題が頻繁に見られる。

20代

特に大学生や専門学生が多くを占めている。相談内容は、健康・メンタル、仕事・職場、恋愛・性、就職・進路に関するものが多い。健康・メンタルに関する相談では、ストレスや不安、うつ状態に関するものが多く、特に睡眠不足や精神的な負担を訴えるケースが目立つ。仕事・職場に関する相談では、職場での人間関係や業務量に対する不満が多く、特に上司や同僚との関係に悩む声が多い。恋愛・性に関する相談では、遠距離恋愛やパートナーとのコミュニケーションに関する不安が多い。就職・進路に関する相談では、将来のキャリアに対する不安や、進路選択における迷いが多く見られる。

30代

仕事や職場に関する悩みを抱えることが多く、特に職場での人間関係やストレス、業務量に関する相談が目立つ。健康やメンタルでは、特に精神的な疲労や健康不安を訴えるケースが多い。育児や介護に関する悩みも頻繁に見られ、特に育児と仕事の両立に苦労しているユーザーが多い。生活や金銭に関する不安、恋愛や性に関する相談も一定数あった。

40代

仕事や職場に関する悩みが多く、特に人間関係や職場でのストレスに関する相談が目立つ。多くのユーザーが職場でのコミュニケーションの難しさや、上司や同僚との関係に悩んでいる。また、育児や介護に関する相談も多く、特に育児におけるストレスや時間の確保に苦労している様子が見られる。健康やメンタルに関する相談も多く、特にストレスや疲労感に関するものが多い。生活やお金に関する不安も多く、特に生活費や将来の経済的な不安を抱えているユーザーが多い。

50代

健康・メンタルの問題を抱えるケースが多く、特に精神的な健康問題や生活保護に関する相談が目立つ。これに関連して、社会的孤立感や経済的困難を訴える声が多い。仕事・職場に関する悩みも多く、特に職場の人間関係やストレス、キャリアの不安が挙げられる。育児・介護に関する相談も多く、特に高齢の親の介護や子供の不登校に関する悩みが見られる。生活・お金に関する不安も多く、特に定年後の生活や収入の減少に対する不安が強い。

60代

健康・メンタルや生活・お金に関する相談が多く、特に引きこもりや不登校の子供を持つ親の相談が目立つ。健康面では、長生きへの不安や慢性的な健康問題が多く、生活面では、退職後の生活設計や経済的な不安が強調されている。多くのユーザーが、自治体の相談窓口や支援制度の利用を考えており、具体的な情報を求めている。特に、生活保護や就労支援、医療機関の利用に関する具体的なアドバイスを求める声が多い。対話の中で、ユーザーはAIからの共感や具体的なアドバイスを求めており、AIの提案に対して感謝の意を示すことが多い。特に、精神的なサポートや具体的な行動指針を得ることに価値を感じている。

70代

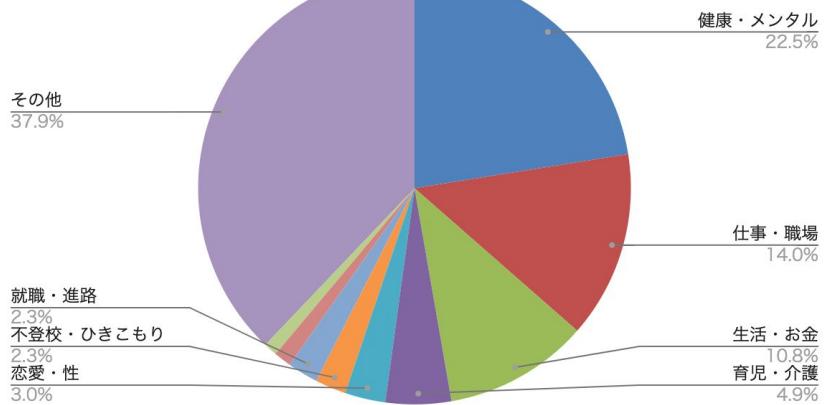
主な相談内容は、健康・メンタル、生活・お金、育児・介護、仕事・職場に関するものです。健康・メンタルに関しては、身体の痛みや病気に対する不安、精神的なストレスが挙げられます。生活・お金に関しては、年金生活での生活費の不足や物価上昇による不安が多く、育児・介護では介護の負担感や将来の介護に対する不安が見られます。仕事・職場に関しては、過去の資格証明書の紛失や事務所移転に伴う不便さが挙げられます。

分析（時間帯 / 悩みの種類）

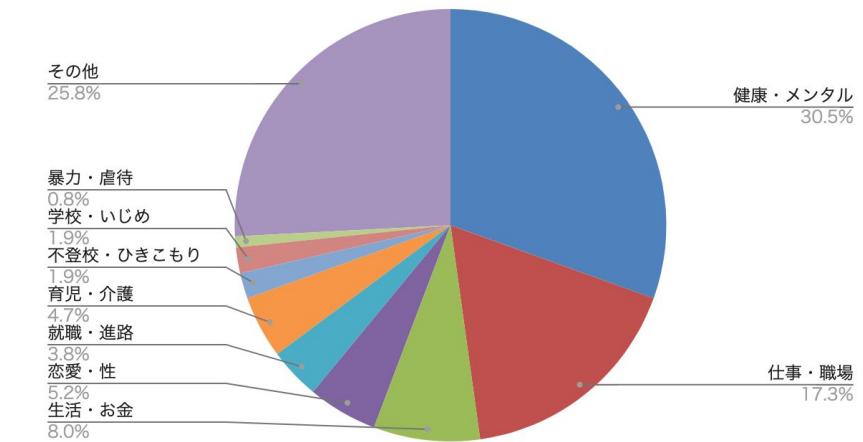
時間帯による悩みの
種類の違い/特徴はあ

まり見られなかっ
た。

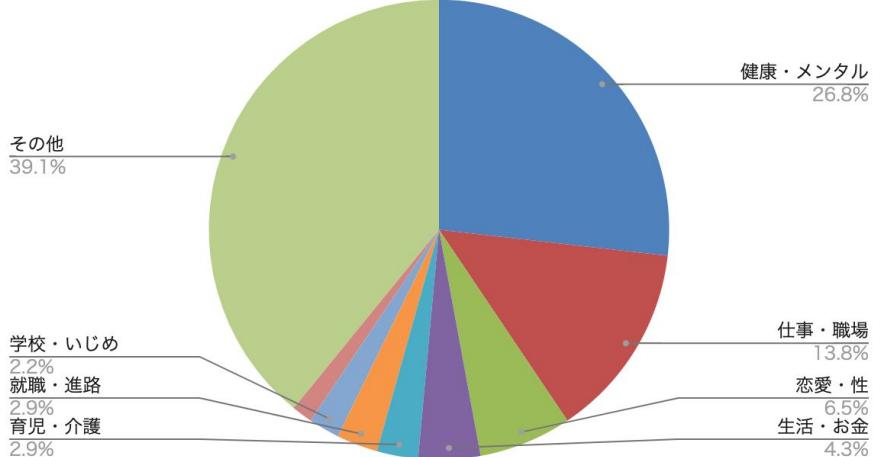
08:00～17:00 (営業時間)



17:00～00:00 (営業時間外)



0:00～8:00 (深夜・早朝)



08 : 00～17 : 00 (営業時間)

その他
35.2%

17 : 00～00 : 00 (営業時間外)

その他
23.4%

男
30.2%

女
32.7%

女
46.4%

男
32.1%

時間帯による男女比

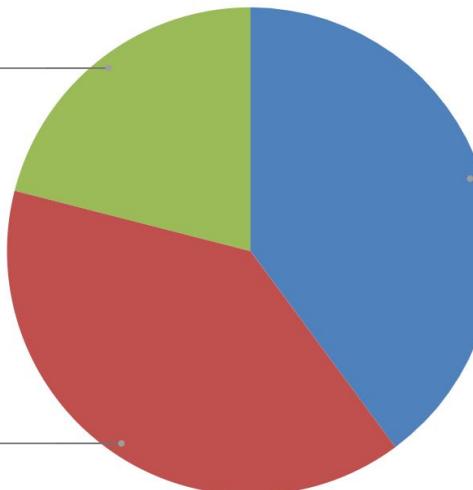
率の違い/特徴はあまり見られなかった。

00 : 00～08 : 00 (深夜～早朝)

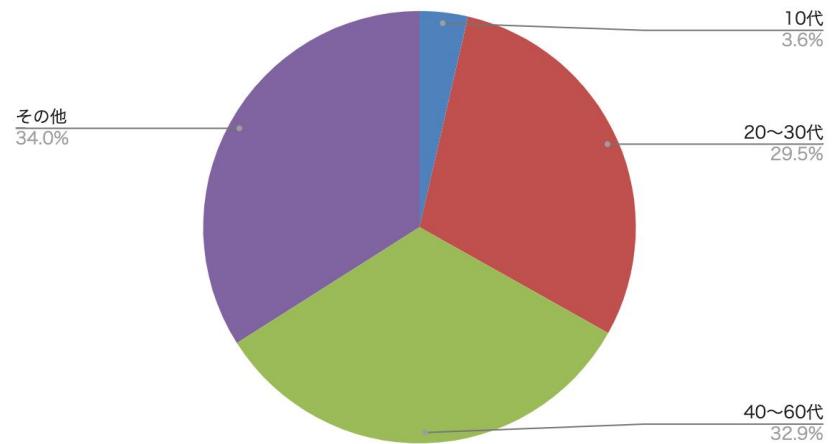
その他
21.0%

男
39.9%

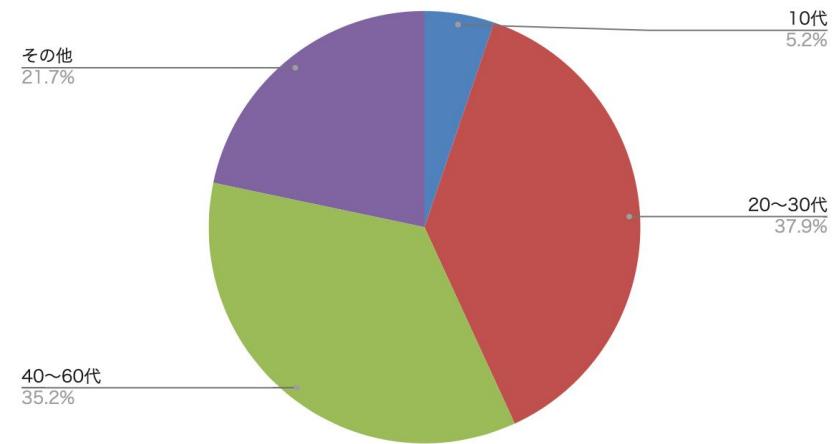
女
39.1%



08 : 00～17 : 00 (営業時間)



17 : 00～00 : 00 (営業時間外)

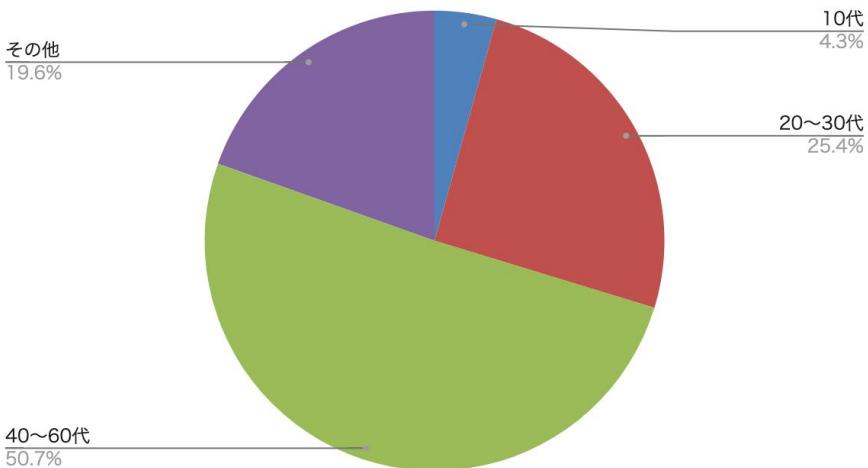


時間帯による年齢層

の違い/特徴はあまり

見られなかった。

00 : 00～08 : 00 (深夜～早朝)



リスク度が高い方を中心にはちまるサポートに繋ぐコーディネーション機能の強化

具体的な窓口や制度、サービスを求める住民への案内機能の強化

包括的な支援体制の構築に向けた はちまるサポートの役割と 地域との“つながり”について

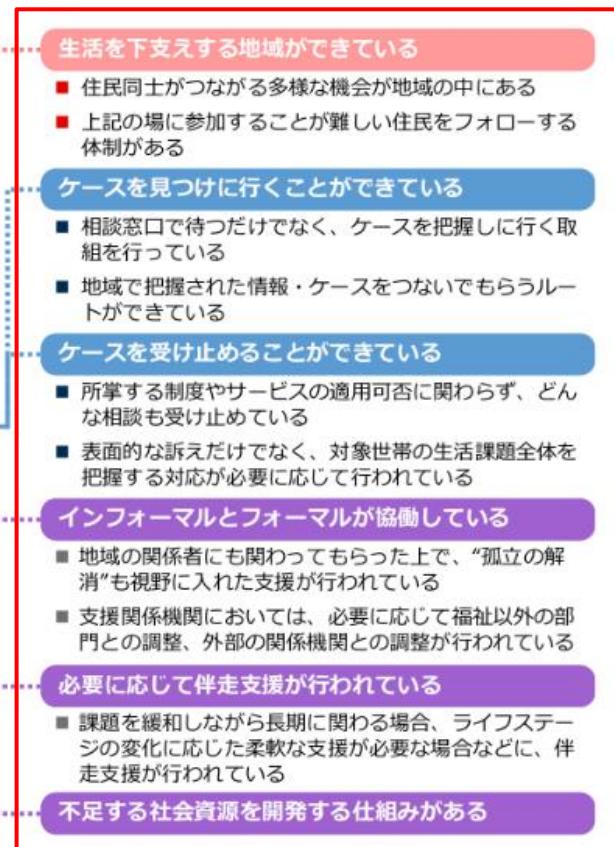
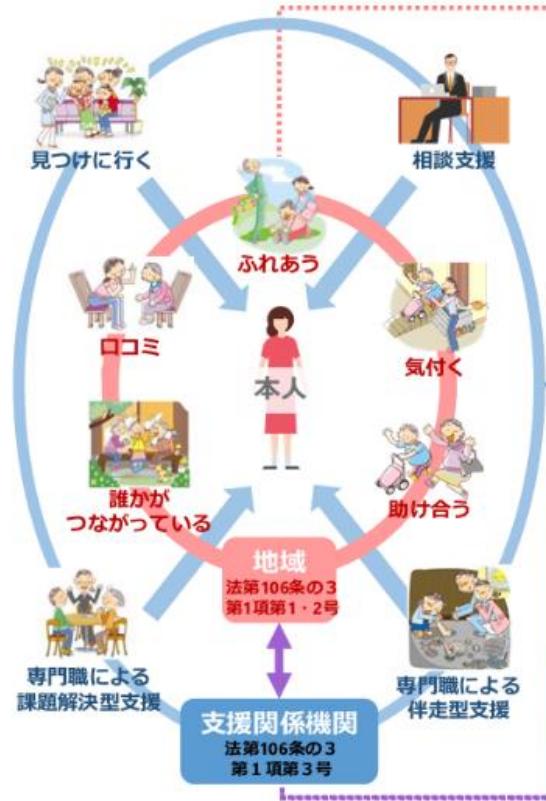
令和7年（2025年）7月28日
地 域 福 祉 専 門 分 科 会
福 祉 部 福 祉 政 策 課

すべての人の生活の基盤づくり (包括的な支援体制の充実にむけて)

支え・支えられる関係の循環～誰もが役割と生きがいを持つ社会の醸成～

地域で支え合う関係性の構築や支援関係機関同士が有機的な連携を行う環境整備

これからの支援体制=包括的支援体制



重層的支援体制整備事業を活用して推進

「包括的な支援体制」の実現を目指した
更なる検討

出典) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング「「包括的な支援体制」の整備が市町村の努力義務になっているなんて知らなかつたという人へのガイドブック」
(令和5年度厚生労働省生活困窮者就労準備支援事業費等補助金「社会福祉法第106条の3に定める包括的支援体制の多様なあり方に関する調査研究」)

八王子市が目指す包括的な支援体制（目指す姿）とは

第4期地域福祉計画より

だれもが地域の中で、共に支えあい
安心して、元気で生き生きと暮らすことができるまちづくり

地域づくり

「はちまるサポート」が属性を問わない支援機関として体制づくりの中心的な役割を担い、地域（住民、地縁組織、民間、大学など）と専門機関との有機的な“つながり”を作ることで、「支えあい、安心して暮らせる」包括的な支援ができるようコーディネートする。（はちまるサポートの機能強化）

基盤づくり

福祉政策課を中心として、はちまるサポートが円滑に運営できる（包括的な支援体制が円滑に推進される）よう庁内横断的な連携を図るとともに、地域生活課題の早期発見、早期支援へのつなぎに向けた仕組みづくりを推進する。
(孤独・孤立対策、包括的なNW会議、相互理解の醸成に向けた研修、先進技術の活用など)

はちまるサポート(八王子まるごとサポートセンター)

支援の狭間に落ち込む生活課題や、複雑化・複合化した問題の相談を受付け、状況整理しながら適切なサービスや支援機関につなげる、福祉の総合相談窓口を設置(R3~)

(1) 運営体制

コミュニティ・ソーシャルワーカー(CSW) 2~3名



(2) 機能

- ① 相談支援機能(包括的相談支援)
- ② 課題を抱えている方等への継続的な訪問支援(アウトリーチ支援)
- ③ 課題を抱えている方等を地域や社会とつなぐための交流や社会参加の支援
- ④ 地域活動の充実、居場所や交流機会等を確保する地域づくりの支援

(3) 基幹型

上記に加え、多機関協働事業や地域内はちまるサポートの運営にかかるマネジメント、成年後見の利用促進などを担う。
(高齢者あんしん相談センターとの併設)

はちまるサポートでできること

はちまるサポートでできること

はちまるサポートは、「福祉の総合相談窓口」です。
地域の方の「お困りごと」のご相談だけでなく、
地域活動などに関するご相談もお受けしています。

相談したい



ひきこもり／生活困窮／
ゴミ屋敷／福祉手続き など



参加したい



地域活動／講座／イベント／
子ども食堂／住民の交流



協力したい



ボランティア／物品寄付／
現金寄付／会員会費



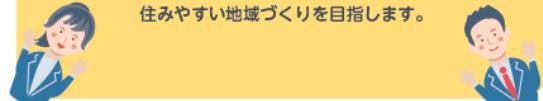
「地域福祉の専門職」CSW*が
あなたのお悩みを一緒に考えます。

*CSW…コミュニティソーシャルワーカー

CSWは、複雑かつ多様化する個別的な相談に対して、
寄り添いながら適切な支援を行う地域福祉の専門職です。

私たちCSWは、生活上のお困りごとを伺い、
地域や関係機関と協力し解決に向けたお手伝いをします。

また、地域活動の支援をとおして、誰もが安心して
住みやすい地域づくりを目指します。



はちまるサポート 3つの事業

アウトリーチ支援事業

関係づくりや、信頼関係の構築のためにこちらから出向いて、働きかけを行います。



地域づくり事業

個々の課題から、地域に必要なものを考え、作り出すこともCSWの役割です！



CSWがお話をうかがい、
様々な支援メニューを検討させていただきます。



参加支援事業

社会とのつながりづくりのための支援を行います。ご本人の好きなこと、興味のあることに合った場所へのマッチングと、定着のための支援を行います。

地域にある様々な場所を活かして、
参加の機会を考えます



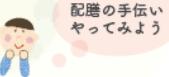
参加支援活動例

畑作業で気持ち リフレッシュ

はちまるファーム
(CSWの取り組みの一つです)



子ども食堂の ボランティア



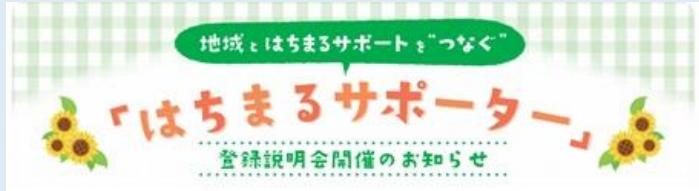
イラストで 社会参加



身近な異変をはちまるサポートにつなげる「はちまるサポーター」

はちまるサポーターになるまで

はちまるサポートで開催する説明会に参加(R6:11回)



【研修内容】

「はちまるサポート」とは、はちまるサポーターの役割など
※同意のうえ登録(ボランティア保険の加入等はなし)

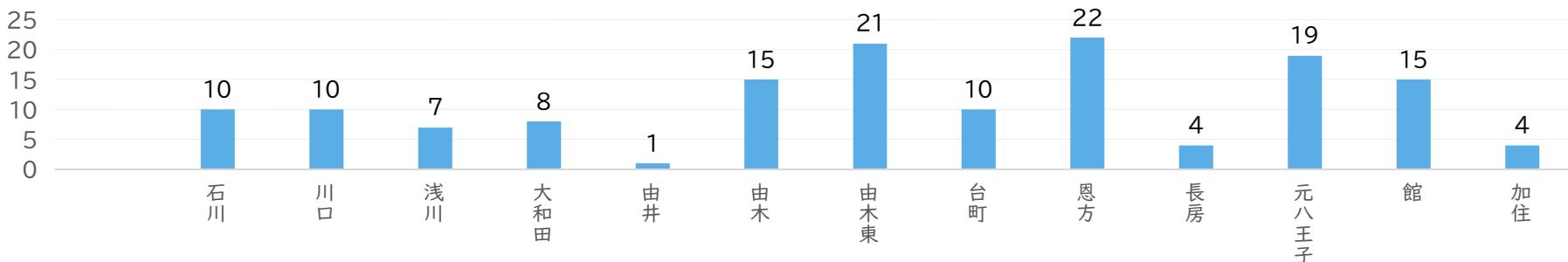
はちまるサポーターになってから

近隣住民や地域の異変など、日常生活の中で気になることや住民同士が交流できる居場所などの社会資源の情報をはちまるサポートに“つなげる”

【活動支援(令和6年度実績)】

- ① 研修会(延2回):はちまるサポーターの役割等
- ② 交流会(延4回):情報共有、グループワークなど

はちまるサポーター登録者数(令和7年3月末時点で146人登録)



関連指標	令和5年度	令和6年度	令和8年度目標
はちまるサポーターの登録人数	10人	146人	115人

はちまるサポートが運用する多様な居場所

はちまるファームとは？

もやもやしたり、行き詰ったり、人間関係につまずいたときに…
ちょっと立ち止まり、心安らげる場所
ゆっくり、のんびり、焦らずに、その人らしいペースで活動できる場所

活動のハードルが低く、
誰でも気軽に
参加できる場があれば…



様々な生きづらさを抱え、地域社会への参加や交流が希薄となっている方々に、農地を活用した地域交流の場を提供し、地域参加の促進を図る。

▶ 小比企町

毎週木曜午前中（延べ参加人数226人）

▶ 南陽台

毎週火曜午前中（延べ参加人数99人）

▶ その他の居場所（はちまるサポートが中心となって活動しているもの）

	名称	開催場所	開催日	内容
中央	このいろ	中野団地 第2集会所	第4水曜日	社会的つながりが希薄な方がお茶のみやゲームを通じてコミュニケーションをとる
西部	まるまるスペース川口	はちまるサポート川口	月1回程度	マインドフルネス講座、自律神経測定会、ポプリ作り、ギター演奏会、ヨガ教室を実施
	まるまるスペース元八王子	元八王子 事務所2階	2か月に1回	カードゲーム大会、レモングラスポプリ作り、調理実習、美化活動を実施
東南	おむすびこむすび	ふくろう はうす	不定期	はちまるサポートで関わりのある孤独・孤立を抱えている方たちが、簡易的な調理やカードゲーム等を通して交流

地域 × 人を結ぶ孤独・孤立対策プラットフォーム

(民間事業者と課題解決に取組む新たな福祉基盤)

プラットフォームがもつ「3つの主な機能」

◆新たな「自分」と「仲間」をみつける居場所の整備

- ・交流・参加・学びが一体的に提供される拠点を整備
- ・社会や仲間とつながりやすくなる取組を民間と展開

◆潜在的な地域の「力」を社会に還元(中長期的な展開)

潜在的な「人財」と地域や事業者などとのマッチング

◆居場所内での福祉専門職による相談対応

居場所内に、福祉の相談ができる機能を設置



人と地域を結ぶ、
“つながり”創出の拠点

ひと×ひとを結ぶ

- ・e-スポーツ×健康づくり
- ・ワークショップ等の開催
(知る、学ぶ、体験する機会)
- ・ゆっくり過ごす居場所 など

分野や年齢を問わない、
多様な取組の実施

交流・学ぶ・
体験等の
参加機会

潜在的な「当事者」に
向けた参加(つながり)の
アプローチ(興味・関心を
通じて「場」につなげる)

市と民間事業者
で共同運営の
協定を締結

潜在的な
「力」の還元

専門支援
(福祉相談)

ひと×地域を結ぶ

八王子市
官民連携プラットフォーム
(結びの拠点)

ひと×福祉を結ぶ

- ・はちまるサポートの設置
- ・福祉の相談対応
- ・生活課題の発見・早期支援
など

- ・人材のマッチング
- ・人材育成(知識・技術取得)
- ・特技を生かす地域活動
など

令和7年度 官民連携孤独・孤立対策プラットフォーム

(新たな居場所の創出と民間との連携による多様な“つながり”づくり)

業務内容	2025年									2026年			
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
居場所づくり	<p>「場」の選定</p> <p>施設のコンセプトを練る</p> <p>施設のPR・ファンマーケティング・プランティング</p> <p>孤独・孤立のことを知る</p> <p>地域での居場所の価値を考える</p> <p>地域の人との 関わりしろを設計する</p> <p>ビジネスとの 関わりしろを設計する</p> <p>取組むべき課題を 設定する</p>	<p>ワーク ショップ (30日)</p>			<p>ワーク ショップ (2回目)</p>			<p>ワーク ショップ (3回目)</p>			<p>ワーク ショップ (4回目)</p>		
イベントなど			▲15広報	eスポーツ イベント (15日)	 <p>太鼓の達人™ ドンダフルフェスティバル & ©Bandai Namco Entertainment Inc.</p>		eスポーツ イベント (2回目)			2回程度「健康ゲーム指導士」 養成講座を開催			
					孤独・孤立の実態把握に関する検討（課題やニーズ、潜在需要の確認など）								

はちまるサポート運営にかかる現状の課題感 (包括的な支援体制を実現するために必要な機能や取組は何か?)

窓口に来所するときは既に問題が深刻化していることが多い

【考えられる要因の例】

- ・はちまるサポートの認知度が低い(R6年度調査:16.1%)
- ・地域にアウトリーチできる時間が少ない(受動的な支援を優先)
- ・潜在的な当事者を発見できる仕組みが少ない(はちまるサポートーなど)
- ・住民同士の交流機会が減少している(潜在化しやすい環境) など

対象を見つける

生活を支える地域

公的なサービスだけでは支援ニーズを満たせず、解決できない問題が増える

【考えらえる要因の例】

- ・医療機関や地域と有機的に連携して支援する仕組みが少ない(個々に依頼)
→ 行政や相談機関がもつ課題や悩みを知らない(知る術がない)
- ・福祉分野以外の民間や大学等の多様な主体と連携できる仕組みがない
- ・多様な主体と課題共有する場が少ないなど

フォーマル
ヒイン
フォーマル
の協働

不足する
社会資源
の開発

包括的な支援体制を充実するために…(本日の論点)

包括的な支援体制の実現を目指してはちまるサポートの機能をどう充実するか?

論点① 地域の課題や問題と“早期に”つながるために
どのような仕組みが必要か

論点② 地域住民や医療・介護、民間、大学等の多様な主体と
有機的に連携するには、現在の多機関協働事業や
市組織の在り方も含め、どのような仕組みが必要か

ある日の関係者とのやり取り(課題感)

